

赤い魚と子供 小川未明

かわ なか さかな
川の中に、魚がすんでいました。

はる はな かわ さ き えだ かわ うえ
春になると、いろいろの花が川のほとりに咲きました。木が、枝を川の上に

ひろ ひろ さ まっか はな くれなひ はな
拡げていましたから、こずえに咲いた、真紅な花や、またうす紅の花は、そ

うつく すがた みず おもて うつ
の美しい姿を水の面に映したのであります。

かわ さかな うえ む みず おもて
なんのたのしみもない、この川の魚たちは、どんなに上を向いて、水の面

うつ はな
に映った花をながめてうれしがったであります。

はな みず うえ せかい うつく
「なんというきれいな花でしょう。水の上の世界にはあんなに美しいものが

よ わたし みず うえ せかい う
たくさんあるのだ。こんどの世には、どうかして私たちは水の上の世界に生ま

か さかな はな あ
れ変わってきたいものです。」と、魚たちは話し合っていました。

さかな こども おど あ はな む と
なかにも、魚の子供らは躍り上がって、とどきもしない花に向かって、飛び

さわ
つこうと騒いだのです。

かあ はな
「お母さん、あのきれいな花がほしいのです。」といいました。

さかな ははおや こども
すると、魚の母親は、その子供をいましめて、いいますのには、「あれは、た

とお はな みず うえ お
だ遠くからながめているものです。けっして、あの花が水の上に落ちてきたとて

た おし
食べてはなりません。」と教えました。

こども ははおや しん かあ
子供らは、母親のいうことが、なぜだか信じられなかった。「なぜ、お母さん、

はな お た き
あの花びらが落ちてきたら、食べてはなりませんのですか。」と聞きました。

文字來源: http://www.aozora.gr.jp/cards/001475/files/51093_48257.html

聲音檔: <https://www.youtube.com/watch?v=FKJQRg53anQ>

けつえきがたうらな せいかくうらな
「血液型占い」による性格占い

… (前略)

わたし ちゅうがく ねん じょし じぶん けつえきがた しょうがくせい とき し
 私は中学2年の女子です。自分の血液型は小学生の時からもちろん知っ
 ています。だって、誰か おとこ こ とき じゅうよう
 男の子が好きになった時、とても重要なことですよ。
 わたし がた がた いちばんあ がた いま いっかい がた
 私はA型です。A型と一番合うタイプはO型です。でも、今まで一回もO型の
 おとこ こ しょうがくせい とき よにん おとこ こ
 男の子を好きになったことはありません。小学生の時から4人の男の子を好
 きになったけれど、そのうち、血液型のわかったのは3人で、3人ともA型で
 した。だからうまくいかないのかもしれない。

でも、こういう話 はうちではまったくしません。どうしてかと言うと、私 の
 ちち いしゃ はは こうこう せいぶつ せんせい きょねん かぞく み
 父は医者で、母は高校の生物の先生なんです。去年、家族でテレビを見ていた
 ようちえん こ たい こうどう み
 ら、幼稚園の子どもたちが、あることに対してどんな行動をとるかを見せて、そ
 けつえきがたべつ とくちょう で ばんぐみ ちち
 こに血液型別の特徴がはっきり出ているという番組をやっていました。父は
 わたし ひかがくてき しん きょく こうぎ
 私に「こんな非科学的なことを信じちゃだめだよ。テレビ局に抗議してやる。
 けつえきがた せつけつきゅう こうげん き こうげん せいかく き
 血液型は赤血球の抗原のタイプで決まるんだ。抗原が性格を決めるという
 けんきゅう おこ はは こうふん ちち さんざい
 研究はまったくないぞ。」って怒っていました。母は興奮している父に『存在
 しょうめい さんざい
 すること』を証明するのはわりあい、しやすいけれど、『存在しないこと』を
 しょうめい むづか い
 証明するのはなかなか難しいことよ」と言いました。(後略) …

文字来源：致良出版社『教養の日本語 中級教材』

いちばん

ネズミの一番のり

おおむかし かみさま どうぶつ やくそく らいねん
 大昔のことです。神様が動物たちとこう約束しました。「来年の
 いちがつついたち あさ はや き じゅんいこうたい まいとし えら
 一月一日の朝わたしのところへ早く来たものから順位交代で毎年いちばん偉
 どうぶつ
 い動物にしてやろう。」

き どうぶつ おおよろこ おお かみさま
 それを聞いた動物たちは大喜び、大はりきり。ところが、ネコは神様のと
 い ひ わす たず
 ころへ行く日をすっかり忘れてしまいました。そこで、ネズミに尋ねました。

かみさま い ひ
 「ネズミさん、神様のところへ行く日はいつだっけ？」すると、ネズミは
 いちがつふつか
 「ネコさん、それは一月二日だよ。」とうそをつきました。

いちがつついたちがんとん あさ あさはや くら
 さあ、いよいよ一月一日元旦の朝になりました。朝早く暗いうちからウシ
 かみさま い うし ある おそ ほか どうぶつ おく
 は神様のところへ行きました。ウシは歩くのが遅いので、他の動物に遅れて
 おも
 はならないと思ったからです。

かみさま つ とき せなか ねずみ と お
 ようやく神様のところへ着いた時、ウシの背中からネズミが飛び降りまし
 せなか の き
 た。ずるがしこいネズミは ウシの背中に乗って、やって来たのです。

いちばん ねずみ つづ あし はや
 一番はネズミ。ウシの次はトラ、ウサギと続きます。足の速いウマやイヌは
 ゆだん あと ほう とし
 油断をしたのでしょう、後の方になってしまいました。こうして、その年のい
 えら どうぶつ じゅんばん き
 ちばん偉い動物になる順番が決まりました。

文字來源：致良出版社『インカ老師説故事 おもしろい昔話(上)』